

## ケニアのステキなところをご紹介ください。



「ケニア共和国は、観光がGDP（国内総生産）の11%を占める基幹産業です。標高5000メートルを超えるケニア山では登山が楽しめますし、59の国立公園・国立保護区・動物保護区ではさまざまな動物や植物を見たり、アトラクションを楽しむことができます。美しい海岸線ではイルカやクジラが見られますし、マリンスポーツも楽しめます。沿岸部には、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に登録されているラム旧市街もあります。

一方、首都ナイロビはICT（情報通信技術）などのインフラが整備され、会議場も充実しています。国際人口開発会議（ICPD）の25年目のサミットが2019年11月にナイロビで開催されましたが、ほとんどの参加者はナイロビ国立公園に足を運びました。世界中で首都の郊外に国立公園があるのはナイロビだけです。都心から15キロしか離れていないので、朝から国立公園のツアーに参加し、9時までに戻ってきて会議に参加することができますし、会議後にナイトツアーに参加することも可能です。

ナイロビには、国連本部があります。ニューヨーク、ジュネーブ、ウィーンに次ぐ、発展途上国で唯一の国連本部です。ナイロビはまさに国際都市であり、コミュニケーションのハブとして機能していると言えるでしょう。巨大な空港を擁し、世界の主要都市と繋がっています。ニューヨークは週6便が就航していますし、ナイロビと成田の直行便就航も現在、日本政府に働きかけているところです。

また、ケニアはクリーンエネルギーの開発も重視しています。タンザニアからマラウイへ南北に縦断するプレート境界「グレート・リフト・バレー（大地溝帯）」には巨大なエネルギーが眠っており、ケニアはそれを活用した地熱発電に注力しています。東芝や三菱電機などの日本企業にもご尽力いただき、ケニアの発電能力は世界第8位を誇ります。その他の産業についても、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向けて紹介していきたいと思っております。」

## 駐日大使を務める中で、思い出に残っているできごとはありますか？

「日本での思い出はたくさんありますが、先日行われた『即位礼正殿の儀』が特に印象に残っています。招待を受けたウフル・ケニヤッタ大統領に同行して出席させていただくことができことは光栄です。5年前の着任の際、皇居で行われた信任状捧呈式で現在の上皇陛下に謁見した時も印象に残っていますが、これはどの国の大使にとっても非常に重要な行事です。

2016年にナイロビで開催された『TICAD 6』（第6回アフリカ開発会議、日本が主導するアフリカの開発をテーマとする国際会議）も印象に残っています。このTICADは初のアフリカ開催であり、当大使館も大いに尽力しました。

TICADに関しては、『TICAD 6』の前年の2015年に、国会の政府開発援助（ODA）に関する特別委員会に呼んでいただき、TICAD及びODAについて意見陳述させていただいたこともあります。国会に大使が呼ばれてお話をすることは稀で、とても貴重な機会をいただきました。

私は『在京アフリカ外交団（ADC）』のメディア・文化・観光委員会の委員長を務めていますが、その業務も思い出に残っています。業務の一つには、日本の皆さまにアフリカをより身近に感じ、理解を深めていただくためのイベント『今のアフリカ』があります。2018年6月には東京の日比谷公園で、2019年5月には横浜みなとみらいの象の鼻テラスで開催しました。2018年の時は当時の外務大臣であった河野太郎氏にご来場いただき、2019年の時は、8月に横浜で開催することになっていた『TICAD 7』（第7回アフリカ開発会議）のプレイベントという位置付けでしたので、情報配信に力を入れ、高円宮妃久子様や副総理兼財務大臣の麻生太郎氏にご来場いただきました。

大使として赴任してからちょうど5年が経ちますが、ケニアと日本が良好な関係を築くことに大いに貢献できたと思っています。そして、これからオリンピックというもう1つのビッグイベントを控えています。久留米市との交流が素晴らしい思い出になることを期待しています」

